

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

(責任者名) 関 安孝

(役職名) 医学部 学務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本プログラムの履修・修得状況を含む、学部専門科目の履修、単位修得状況、成績分布は、医学部学務委員会において報告され、成績分布の偏りがある科目についてはその理由等が分析されている。分析結果は、大学全体の学士課程運営委員会に報告される。これらの調査、分析の過程において、成績分布に偏りのある授業の担当者は学務委員会委員から調査を受けることになる。
学修成果		プログラム履修状況と同様に、学習成果が反映される成績分布は、医学部学務委員会で分析が行われる。これにより、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を本教育プログラムの評価・改善に活用する。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		授業担当者は、授業に対する学生アンケートを行うことで改善に役立てることなど、担当授業の授業改善のための取り組みを行うこととされている。これらの取り組みを通じて、履修者の理解度評価や個別意見などをフィードバックすることによって授業が改善される。さらに1年次の学生に対し、本プログラムに関するアンケートを実施し、次年度の履修推奨に活用する。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		前項で記載した1年次の学生に対し1学期終了時アンケートで、本プログラムに関するアンケートを行っている。これらを取りまとめた結果は、年度当初のオリエンテーションにより学生への履修推奨や授業改善に活用される。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラムのリテラシーレベルに関しては、令和4年8月に全学的に既に認定を受けた。また、令和6年度8月に理工学部において令和7年度8月に農林海洋科学部において応用基礎レベルが認定された。同レベルに関しては、医学が令和7年度より既にプログラムを開設し、令和7年度中の先行認定を目指している(本申請)。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムの開始は令和7年度であり、最初のプログラム修了者は令和12年度に卒業予定であるため、現時点で教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価は不明である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	医学部の各委員会の外部委員に本プログラムの内容を説明し、意義や手法についての意見聴取のアンケートを実施した。その結果、本プログラムの重要性を踏まえて、論理的思考やディスカッション能力の育成、継続的な外部評価が望まれていることが示されている。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	既の実診療において導入されている数理・データサイエンス・AIに関する分野の紹介を通じ、「学ぶ楽しさ」を理解してもらう講義内容を実施している。アンケート結果を通じて、紹介する内容の検討を行う予定である。また、実診療において導入されている現実を踏まえて、医療従事者として基本技術の理解が必要であることの説明を通じて「学ぶことの意義」を理解してもらう講義内容を実施している。
	<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学の専門科目の成績分布は、学期毎に学部毎に設けられている委員会(医学部では学務委員会)によって追跡されており、内容・水準が低下して成績上位者が異常に多い科目、分かりづらく履修登録者数に比べて単位修得者が少ない科目については、その理由等の確認が行われる態勢が構築されている。これにより、水準を維持し、かつ「分かりやすい」授業を継続的に提供する仕組みになっている。</p> <p>データサイエンスに関連する社会の動向は本学データサイエンスセンターにも常時把握され、リテラシーレベル教育プログラムの「データサイエンス入門」において生成AIも取り扱われ内容の更新が検討されている。本応用基礎レベルプログラムにおいては、「EBMⅡ」において、医学分野における最新の動向を踏まえた内容に順次変更している。</p>